

## 協会の一年を振り返る

新型コロナウイルス(以下コロナ)感染者が2019年12月31日、中国・武漢市で公式に確認されたから一年が経った。目に見えない感染力の強いコロナは瞬く間に世界中に広がり、大勢の感染者、死者を出した。影響は計り知れず、経済はもとより、医療、日常生活まで地球規模で一変させ、今なお猛威を振るう。コロナで明け暮れた2020年。岐阜県日中友好協会の一年を振り返ってみた。

### 日中友好が地域の活性化に!! 新春のつどいで張訳丹さん講演

◎：恒例の「2020新春のつどい」が2月1日、岐阜市内のホテルグランヴェール岐山の

開かれ、飛騨高山のグリーン・ツーリズム民宿「喜楽園」代表の張訳丹さん(37)が「飛騨と中国の懸け橋に〜乗鞍のふもとから感動発信」と題して講演した。

張さんは内モンゴル出身。ロシアの国立大学を卒業、北京で就職したが、視野を広げたいと日本留学を決意。ビザ取得日は東日本大震災発生の日だった。人も家も津波にのみ込まれる映像を見て涙が流れた。「運命かもしれない」と岐阜大学大学院に入学した。

### 新年の挨拶 岐阜県日本中国友好協会 会長 杉山 幹夫



新年あけましておめでとうございませう。昨年は新型コロナウイルス

イルス感染症(以下コロナ)で明け暮れましたが、皆様方におかれましてはご清栄のことと存じます。

コロナ禍で、「わたしたちの日常生活、働き方から対人関係までもが一変しました。当たり前、常識と思われてきたことがそうではなくなりました。岐阜県日中友好協会も活動の自粛を余儀なくされました。しかし、その一方でIT(情



日中友好による地域活性化を語る張訳丹さん  
＝岐阜市内のホテルグランヴェール岐山

辞を読んだ。縁あって高山市に移り住み、森林コーディネーターのご主人と主に中国人のインバウンドツアー客に田舎体験などのプログラムを提供している。

張さんが住む朝日町は(旧朝日村)は人口約1600人の過疎地域だが、自然豊かで住民自治がしっかりしており人々の絆は強い。地域の人々を先生に、宿泊客は魚や虫捕り、野菜収穫、郷土料理、生け花、着付けなどを体験、住民と交流できるシステムをつくりあげた。「日中友好が小さな集

報技術)によって家に居ながら仕事ができるリモートワーク、遠くの人と近況報告、情報交換できるオンライン交流は、常識を覆し、新たな発見を生み出した。不要不急の自粛によって、時間の使い方を変え、じっくり考える人も出てきました。日中関係は世論調査によると、尖閣、南シナ海問題によって日本人の中国嫌いが増えています

に任せ、人と人との関係は大切にしていきたいものです。コロナ禍は必ず終息します。来年(2022年)は日中不再戦碑文交換60年を迎えます。当協会の原点に立ち返って自分は何ができるか、一人ひとり考えていきたいと思います。最後に今年がみなさまにとって良い年になることをお祈りします。

落の活性化の大きな力になっている。地域と中華圏の人々の笑顔を増やすこと」と自らの役割を述べ、「人生の価値は何を得るかではなく、何を残すかにある」と結んだ。

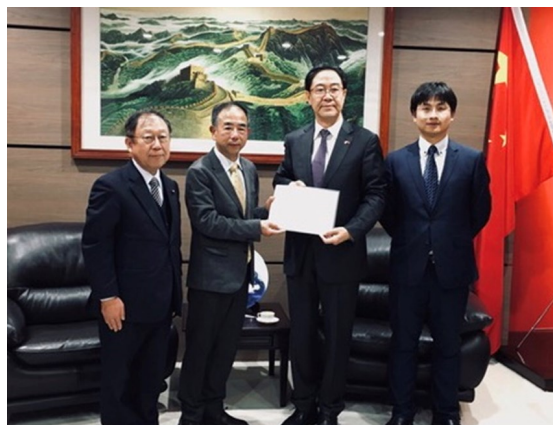
講演後、懇親会があり、当協会の杉山幹夫会長、柴橋正直岐阜市長（副会長）ら50余人が交流を深めた。この中で来賓あいさつに立った中国駐名古屋総領事館友好交流担当の曾理華副領事が新型コロナウイルスによる肺炎に触れ、日本からの支援に感謝の意を表した。

**中国駐名古屋総領事館へ義捐金**

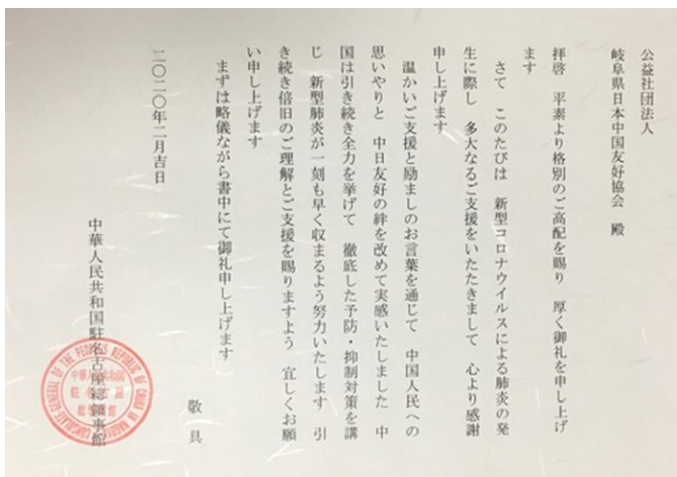
◎：武漢市の街が封鎖されて20日余り経った2月13日、岐阜県日中友好協会は会員有志から託された義捐金13万5千円を中国駐名古屋総領事館へ寄託しました。

2月初め、横浜港に到着したクルーズ船の乗客の集団感染が判明していたが、国内では危機感共有されておらず、先ず隣人へ手を差し伸べようと会員から浄財が届きました。

土屋康夫理事長と田中孝典理事・事務局長が総領事館を訪れ、劉曉軍総領事に「加油（頑張ってください）」の言葉を添えて義援金を手渡しました。



会員有志からのコロナ義援金を劉総領事に手渡す土屋理事長、田中理事・事務局長  
＝名古屋市内の中国駐名古屋総領事館



中国駐名古屋総領事館から贈られた礼状

劉総領事は「岐阜県日中友好協会の温かいご支援と励ましのお言葉を通じて、中国人民への思いやりと、中日友好の絆をあらためて実感しました」などと述べ、当協会への丁寧な礼状をもらいました。

**岐阜県庁に医療用マスク  
3千枚寄贈**

◎：コロナ感染者が国内でも確認され、世界保健機関（WHO）が3月11日、パンデミック（世界的大流行）を表明。その頃、街中のドラッグストアやスーパーから不織布マスクが消えていた。不織布マスクの大半は中国で大量生産されていたが、日本への輸出がストップ。市民の不安は募るばかりだった。

そんな時に駐名古屋総領事館から3千枚の医療用マスクを詰めた段ボール箱が岐阜県日中友好協会に送られて来た。「会員のみなさまに」と添え書きがあったが、マスク不足は県内の医療・介護現場でもひっ迫しており、同総領事館の好意を広く生かすため、3月13日、岐阜県庁へ寄贈しました。

この頃、『山川異域 風月同天』（住むところが異なっても 同じ空

の下でつながっている）の漢詩が話題になりました。日本育成協会（本部東京）が湖北省に贈ったマスクの段ボール箱に添えたのがきっかけでした。

7世紀初め、天武天皇の孫、長屋王が遣唐使に託し唐の僧に贈った千枚の袈裟に縫い付けられた『山川異域 風月同天 寄諸仏子 共結来縁（この袈裟を僧に喜捨し 共に来世での仏縁を結びましょう）』の一文で、唐の高僧鑑真が心を動かされ来日を決意するきっかけとなったといわれる。

**書面審議による定期総会**

岐阜県日中友好協会は毎年5月中旬、定期総会を開催、ここ数年は総会後に公開講演会（中国くるぶ）を主催してきたが、総会はコロナ感染の回避の見地から書面による審議に切り替え、講演会は中止に。

書面による総会開催は規約にないが、コロナ禍、参加の会員、一般聴講のみなさんに不安を与えると判断し、事前に書面による総会開催の同意を得て、各議案の賛否を求めました。

その結果、書面開催の同意は賛成

多数、前年度事業報告、同収支決算、役員改選、新年度事業計画案、同収支予算案の5議案は原案通り承認が得られた。

### 中嶋岬さん、日中友好協会から永年会員表彰

岐阜県日中友好協会会員の中嶋岬（たかし）さんは、（公社）日本中国友好協会から永年会員として表彰されました。同協会創立70周年を記念し、都道府県協会の20年以上在籍する会員の功績や活動をたたえるもので岐阜県日中友好協会が推薦しました。

中嶋さんと中国の関わりは1984年までさかのぼる。ある政党の「日中友好の翼訪中団」（団員150人）の岐阜県代表の一人に選ばれ、初めて中国の大地を踏みました。41歳のときでした。

滞在中、首都北京では後々の国家主席になる胡錦濤氏ら若手リーダーと交流しました。地方視察もあり、岐阜市の友好都市・杭州市を訪れたとき、街の至る所でごみが目に留まりました。

文化大革命が終わり、疲弊した国を建て直す改革開放（市場経済移

行）政策が緒に就いたばかり。その後『天安門事件』（89年）で改革開放政策は一時中断し、軌道に乗るのは最高指導者の鄧小平氏が武漢、深圳などを視察して外資導入の発破をかけた『南巡講話』（92年）からでした。

杭州市のごみは、発展途上にあつた当時の中国社会を象徴しており、「微力でもお役に立てる」とゴミ収集車（2トン車）の寄贈を思い立ちました。71年に旅行会社の営業マンから夫婦で起業した『中島清掃株式会社』は順調でしたが、あえて会社の金は使わず、自らの給料を積み立て、5年に一回、20年続ける誓いを立てました。

当時、中国にゴミ収集車を送るには法律などクリアすべき課題がたくさんありました。中嶋さんの情熱に協力を惜しまない岐阜市職員も現れ、86年に1号車を皮切りに98年までに5台を寄贈、当初の誓いを見事達成しました。

これに対し、杭州

市は98年に『荣誉（名誉）市民』称号、2006年には『荣誉都市美容師』称号を中嶋さんに贈り、功績に応えました。

一方で中嶋さんは中国人留学生の身元保証人を引き受け、89年に最初の留学生を、91年、93年に計3人の留学を支援しました。そのこともあつて毎年恒例の当協会主催の『新春のつどい』に中国人留学生を招待し、会員との交流の機会を提供しています。

あらためて表彰の感想と日中友好への思いを伺うと、「身の丈に合ったものでないと長続きしません。中国は大切なお隣さん」。謙虚な人柄が伝わってきます。78歳。

岐阜市栗野在住。78歳。



表彰状を手に喜びを語る中嶋岬さん

### ◇日中関係の書籍紹介

『武漢日記 封鎖下60日の魂の記録』（方方著、飯塚容十渡辺新一訳、河出書房新社、本体1,600円、税別）

## 武漢日記

封鎖下  
60日の  
魂の記録

方方

Fang Fang  
飯塚容十渡辺新一訳



内田樹氏、レイティミカこ氏推薦!

河出書房新社

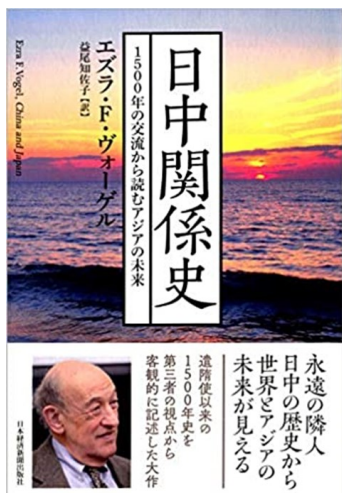
著者の方方さんは、新型コロナウイルス（コロナ）の感染が最初に広まった中国湖北省武漢市在住の著名な女性作家で、約2か月半にわたる都市封鎖下での日々の暮らしを日記としてSNS（会員制交流サイト）に投稿、1億人を超える読者を獲得した。

日記は武漢封鎖3日目の1月25日から封鎖解除の方針が発表された3月24日まで全60編。憤りや怒り、悲しみ、無念さ、ときには「マスク不足」など当局（政府、省、市）の「職務怠慢」や「無責任」批判も辞さないため、検閲によってアカウントは閉鎖され、心ない誹謗や中傷

も。一方当局に削除されそうな日記はフオロアーらが転送、中国内外問わず多くの人の共感を呼んだ。

方方さんが描いたのは、名もない市井に生きる人々。「今日見た動画で、いちばん忍びなかったのは、霊柩車を追いかけて泣き叫ぶ少女の映像だった」（2月2日）。コロナの影響を最も受けた人々に寄り添うのは、作家としての矜持である。

『日中関係史 1500年の交流から読むアジアの未来』（エズラ・F・ヴォーゲル著、益尾知佐子訳、日本経済新聞社、本体3,000円、税別）



著者のヴォーゲル氏は、米国の著名な東アジア研究者でハーバード大学の名誉教授。というより、日本の高度経済成長の要因を分析

したベストセラー『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の著者といっただ方がピンとくる。しかし、残念なことに2020年12月20日朝（現地時間）、手術後の容態が急変し、東部マサチューセッツ州の病院で亡くなった。90歳だった。

ヴォーゲル氏は、ハーバード大学で社会学の博士号を取得したあと、1958年から2年間日本に滞在するなど日本社会を研究。その成果が1979年の『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を生んだ。

日本研究とともに中国研究の第一人者でもあり、改革開放の推進者、鄧小平の生涯をまとめた2013年の著書『現代中国の父 鄧小平』は中国でベストセラーになり、日中両国で広く読まれている。

『日中関係史』は日本と中国の交流の歴史を遣唐使までさかのぼり、1500年の交流史を第三者の視点で客観的に描く。「本書を書こうと思ったのは、どちらにも親しい第三者として、両国関係をなんとかしたいという気持ちがあったためである。——中略——自

分の能力が能うかぎり、両国の歴史をできるだけ客観的に記述しようとして試みた。私の使命は実事求是であって、どちらか一国や私自身のために真実をゆがめることではない」（「まえがき」抜粋）

日中両国でヴォーゲル氏を尊敬し、飾らない人柄に親しみを抱く人は少なくない。小生もその一人で2019年11月23日、愛知大学での講演『永遠の隣人…日中の歴史から考えるアジアの未来』は、流暢な日本語で大局的見地と寛容さを強調した。

関心ある方のためにYouTubeアドレスを記しておく。

【愛知大学中国公開講座20】  
ハーバード大学エズラ・F・ヴォーゲル名誉教授 講演会  
YouTube

#### ◇ ぶ 報

会員の安藤誠司さんが11月21日夜、入院先の病院で亡くなられました。52歳。自宅は可児郡御嵩町美佐野2933-1。中国江西省南昌市の東華理工大学で日本語教師を務め、帰国後、当協会に入会。温厚で笑顔が絶えない方でした。謹んで哀悼の意をささげます。

## 令和2年度の協会活動について報告

コロナ禍は、日本全国に大きな影響を及ぼしました。岐阜県でも非常事態宣言が2020年4月10日発令され、外出の自粛の徹底と、人との距離を保つソーシャルディスタンスの徹底が要請されました。

当協会は、会員の皆様の健康を考え、初めて書面総会を開催し、以後の感染状況を勘案し、講演会事業の中止を判断させていただきました。

発生から1年近くになりましたが、依然予断を許さず、秋の中国くるぶ中止に続いて、新春のつどい（例年2月第1土曜日）も開催を断念しました。会員の皆様におかれましては、ご理解いただきますと共に、引き続き予防対策の徹底をお願いします。

